

入院中にステロイドの経口・静注された小児喘息患者の割合

QI 項目の解説

小児気管支喘息治療・管理ガイドライン 2012」において、喘息発作の強度に応じた薬物療法が基本治療（ステップ 1）となります。吸入ステロイドの処方ステップ 2 以上となります。薬物療法は、早期に十分な効果が得られたのちに良好な状態を維持できる必要最少量まで徐々に減量するほうが、患児の生活の質（QOL）の向上のためには望ましいと考えられています。本指標では、より高い値が望ましいとされています。

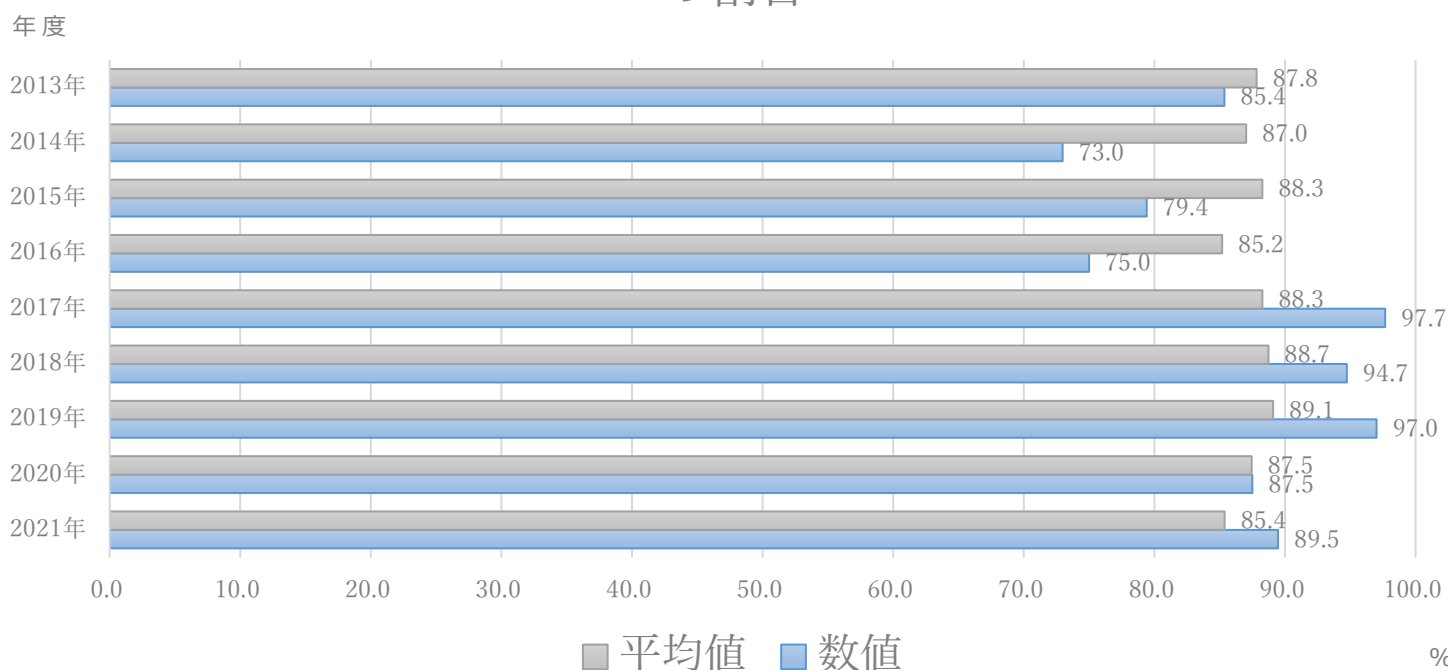
入院中にステロイドの経口・静注処方された小児喘息患者の割合

QI 指標の定義・計測方法

分子：入院中にステロイドの全身投与『静脈注射・経口投与』を受けた患者数

分母：2 歳から 15 歳の喘息患者のうち、喘息に関連した原因で入院した患者数 ×100【%】

入院中にステロイドの経口・静注された小児喘息患者の割合



2021 当院データと全施設平均値との比較・原因分析

2021 年度も昨年度と同様の数値となっております。新型コロナウイルス感染症の影響が継続していると考えられます。

2021 当院データと 2020 当院データとの比較・原因分析

2020 年と同等の数値となっております。

数値改善に向けた今後の取り組み

現状維持に心がけます。

2021 当院データ評価時の改善策の実施状況と評価

患者さんの重症度、ご年齢などを考慮した上で、今後も同様の治療を行います。